

外国語を通じてコミュニケーション能力の 素地・基礎を養う指導を求めて

～コミュニケーションを図る楽しさを実感する効果的な小中連携の在り方～

岐阜市立東長良中学校 後藤 喜朗

1 はじめに

外国語活動が始まり、コミュニケーションの喜びを実感できる活動が展開される一方で、「小学校教員の負担感」「英語免許がない教員の不安」「校種間連携の在り方」「中学校入門期指導の工夫」「中1の授業改善」等の課題がある。多忙な教育現場にて、いかに効果的、計画的、系統的に外国語活動及び英語の指導をするのか、そして、児童生徒に「コミュニケーションを図る楽しさを実感」させるかを最大の使命ととらえ、本研究を実践した。

2 主題設定の理由

生徒は、小学校で外国語の音声や表現に慣れ親しみ、コミュニケーションへの素地を身に付け、外国語学習に興味・関心を抱いている。その一方で書くことや単語量増加の不安など、「英語学習の中1ギャップ」という思いをもっている。そこで、「連携」をキーワードとし、上記の研究主題を設定し、下記の「願う児童生徒の姿」「研究仮説」を考えた。

【願う児童生徒の姿】

小学校：英語表現に慣れ親しみ、コミュニケーションを図る楽しさを実感できる活動を通して、コミュニケーション能力の素地を身に付けた児童

中学校：既習の表現を駆使して、コミュニケーションを図る楽しさを実感できる活動を通して、コミュニケーション能力の基礎を身に付けた生徒

【研究仮説】

日常的な小中連携を通して、9年間を見通した指導計画の工夫改善を行い、コミュニケーションを図る楽しさを実感できる活動を行えば、コミュニケーション能力の素地・基礎を身に付けることができる。

3 研究内容

(1) 校区内の小学校間交流及び効果的な小中交流の在り方

①小学校外国語活動担当者と中学校英語科部員との担当者会の位置付け

教員自身の負担感の軽減や各校の校務に影響がないように午後4時から午後5時までを担当者会の時間とした。主な内容は、下記の3点である。

a カリキュラムの交流

小学校と中学校のカリキュラムを交流することにより、互いの学習内容を確認した。

b 小学校間の指導内容の統一

2つの小学校間の指導内容を統一するため、単語及び英語表現（言語材料）の共通化を図った。具体的には、下記の通りである。

- ・色の単位では、赤(red)、青(blue)、黄(yellow)、緑(green)、黒(black)、白(white)を2つの小学校で必ず学習すること。
- ・相手の言った英語を必ず繰り返すこと。繰り返すことによって対話を継

続けることができる。

A: I like to play basketball.

B: Oh! good!, you like to play basketball.

c 参観授業の研究会の位置付け

学習指導案を作成するのではなく、日常の外国語活動及び英語の授業の参観を通して、感想、意見、気付いたことを気軽に言い合える研究会を位置付けた。

②中学校英語科部員による小学校外国語活動研修会の実施

夏季休業日を活用し、中学校英語科部員が、小学校教員への研修会を行った。

“Hi, friends!” の「道案内をしよう」の単元を取り上げ、実際の学習活動を展開した。小学校教員が児童役をしたことで、子どもの立場に立った研修ができた。また、顧問教頭が学習指導要領の解説、『英語ノート』の実践等、外国語活動の理論編の講義を行った。

③保護者参観を活用した授業参観の実施

小学校外国語活動担当者と中学校英語科教員による日常的な交流を目指し、授業参観の折に互いの学習を参観するようにした。この取組を通して、学習指導案を作成しないで授業交流ができ、教職員の負担感を軽減することができた。

(2) 9年間を見通した指導計画の作成

小中学校の教員が、それぞれの学習内容を理解し、指導に活かすという意味から5、6年生の“Hi, friends!”と中学校教科書との系統図の作成を行った。

(3) 小学校での指導を踏まえた中学校1年生の指導の在り方

入学当初の生徒へ外国語活動及び英語授

業に係るアンケートを実施し、英語学習への願いや意識を分析した。また、「教科シラバス集」(本校作成)の中の「英語を学習するにあたって」を使って、オリエンテーションを行った。自己紹介や学習の仕方の説明で終わりがちなオリエンテーションではなく、英語の歌、チャンツ、ペアでのインタビュー等の活動を位置付け、中学校での魅力的な授業開きを行うことができた。

4 おわりに

中学校の1学期の学習活動を終えた生徒は、下記のような感想を書いている。

私は、最初英語の学習が不安でした。小学校では、ゲームや歌で楽しかったけれど、中学校では、書くことが心配でした。でも、今は英語の学習が楽しいです。自分の英語が友だちに伝わったり、仲間の英語が分かったりするとすごく嬉しいです。小学校で習った表現を使って外国人の先生と話ことができました。将来通訳になりたいので、2学期からの英語の授業も頑張りたいと思います。(現東長良中学校1年生 Aさん)

上記のように中学校の英語学習が不安であった生徒も仲間とコミュニケーションを図る活動に喜びを感じている。こうした生徒の声、研究の歩みを受け、今後は、高等学校も巻き込みながら小中高の連携を活かした英語教育の実践を進めていきたいと考えている。

【ご案内】

岐阜市立東長良中学校

「わが校発表会」(研究発表会)

平成24年11月16日(金)